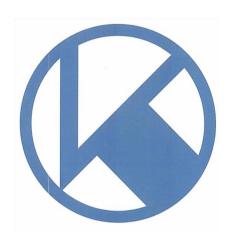
2022年度

郡山健康科学専門学校 講義概要



メディカルスポーツ 柔道整復学科 3年生

学校法人こおりやま東都学園

メディカルスポーツ柔道整復学科 2022年度生 履修一覧

	1年							
教育内容	科目名	国試該科目						
科学的思考の基 礎 人間と生活	人間発達学 栄養学 情報処理概論 医療倫理 運動の科学 I 保健体育 外国語	•						
人体の構造と機 能	解剖学 I 生理学 I 生理学 I	• • •						
疾病と傷害	整形外科学	•						
保健医療福祉と 柔道整復の理念	医学史 柔道 I	•						
基礎柔道整復学	柔道整復学総論 包帯法 柔道整復特論 I	•						
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学 I 物理療法	•						
柔道整復実技	スポーツ予防学 保存療法 柔道整復実技 I	•						
臨床実習	臨床実習 I	•						

2年							
教育内容	科目名	国家験当日					
科字的思考の基 礎 人間と生活	運動の科学Ⅱ						
	解剖学 Ⅱ 解剖学実習	•					
人体の構造と機 能	老年学Ⅰ	•					
	スポーツ生理学 運動学	•					
疾病と傷害	一般臨床医学病理学概論	•					
	外科学概論	•					
柔道整復術の滝 応	リハビリテーション概論 柔道整復術の適応	•					
保健医療福祉と 柔道整復の理念	柔道Ⅱ 公衆衛生学	•					
社会保障制度	社会保障制度	•					
基礎柔道整復学	柔道整復特論Ⅱ	•					
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅲ	•					
	臨床柔道整復学Ⅳ	•					
	柔道整復実技Ⅱ	•					
柔道整復実技	柔道整復実技Ⅲ 	•					
	老年学Ⅱ	•					
臨床実習	臨床実習Ⅱ	•					

	3年								
教育内容	科目名	国家 試験 当 科目							
人体の構造と機 能	生体機能特論	•							
保健医療と福祉 と 柔道整復の理念	柔道Ⅲ 関係法規	•							
基礎柔道整復学	基礎柔道整復学セミナー	•							
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学セミナー 	•							
柔道整復実技	柔道整復実技セミナー	•							
臨床実習	臨床実習Ⅲ	•							

2. 専門基礎分野

【科目名】			【担当教員】				【科目責任者】
	生体構造特	詩論	前田 信吾				担任
[対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業刑	彡態】	【単位】
	ポーツ柔道整復学科	3	前期	15(30)	講		1
E年間 <i>0</i> 学習目)柔道塾)専門基	基礎分野の学習内	いて治療をする際に 容を反復し、より高原	必要な臨床的知識 度な知識を把握する 诊断が出来るよう総	00		f	して得られる力】 知識・理解 問題解決力 一ムで働く力
5	0 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \						
【履修上 回数 ┃	の注意】 授業のテーマ	/(担当教員)		カカ容・目標(使用教	材等)		授業方法
1	生体		2276	臨床的知識1			グループ
2	生体	構造		臨床的知識2			グループ
3	生体	構造		臨床的知識3			グループ
4	生体	構造		臨床的知識4			グループ
5	生体	構造		臨床的知識5			グループ
6	生体	構造		臨床的知識6			グループ
7	生体	構造		臨床的知識7			グループ
8	生体	 構造		臨床的知識8			グループ
9	生体	構造	臨床的知識9			グループ	
10	生体	—— ———— 構造	臨床的知識10			グループ	
11	生体	 構造	臨床的知識11 グル			グループ	
12	生体	 構造	臨床的知識12 グル・			グループ	

13 生体構造 臨床的知識13 グループ グループ 生体構造 臨床的知識14 14 生体構造 臨床的知識15 グループ 15 期末 筆記試験 筆記試験 90% 評価方法 試験 受講態度 10%

【教科書】

(公社)全国柔道整復師協会 監修『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版) (公社)全国柔道整復師協会 監修『運動学』 改訂第3版 (医歯薬出版)

柔道整復師国家試験過去問題集

【参考書】

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】専門基礎(解剖学・生理学・病理学)

	【科目名】	1	【担当教員】			【科目責任者】		
	生体機能特			前田 信吾				
	【対象学科】	 【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	 【授業形態】		【単位】	
「テ゛ィカル)	スポーツ柔道整復学科	3	後期	15(30)	講	 義	1	
三年間 学習 E 一 学習 E 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	D概要・目的】 の柔道整復学を総合 目標(到達目標)】 整復師が臨床におい 基礎分野の学習内なの場で正しい評価が	ヽて治療をする際に 容を反復し、より高∫	度な知識を把握する) o		ŀ	して得られるカ】 知識・理解 問題解決力 ームで働くカ	
	□ ○ 注意】							
腹修」 回数	上の注意】 授業のテーマ		授業(の内容・目標(使用教	 :材等)		授業方法	
1	生体			臨床的知識1			グループ	
2	生体	機能		臨床的知識2			グループ	
3	生体	機能		臨床的知識3			グループ	
4	生体	機能		臨床的知識4			グループ	
5	生体	機能		臨床的知識5		_	グループ	
6	生体	機能		臨床的知識6			グループ	
7	生体			臨床的知識7			グループ	
8	生体	機能		臨床的知識8			グループ	
9	生体		臨床的知識9			グループ		
10	生体		臨床的知識1O			グループ		
11	生体		臨床的知識11 グル			グループ		
12	生体	機能	臨床的知識12 グルー				グループ	
12	生体		臨床的知識13 グルー				ガル.一プ	

 13
 生体機能
 臨床的知識13
 グループ

 14
 生体機能
 臨床的知識14
 グループ

臨床的知識15

グループ

 期末
 筆記試験
 評価方法
 筆記試験
 90%

 試験
 受講態度
 10%

【教科書】 (公社)全国柔道整復師協会 監修『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版) (公社)全国柔道整復師協会 監修『運動学』 改訂第3版 (医歯薬出版)

【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集

生体機能

15

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】専門基礎(解剖学・生理学・病理学)

【科目名]		【科目責任者】		
柔道Ⅲ			中島 嘉和		担任
未但 <u></u>					1 1.T.
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【開講時期】 【回数(時間)】 【授業形態】		
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期 15(30) 講義			2

講道館柔道の目標とするところは、人格、精神の向上を技の向上よりも重んずることにある。柔道の修業は、攻撃防御の練習によって、己を完成し世を補益することが究極の目的である。

【学習目標(到達目標)】【受講して得られる力】①初段程度の受身を習得する。前に踏み出す力②投形(手技・腰技・足技)受取を習得する。3初段程度の乱取を習得する。④⑤

【履修上の注意】

【本講義に関しての質問先】科目責任者

	- 47 /11/64						
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業(の内容・目標(使用教	材等)	授業方法	
1		柔道の沿革 礼法		立礼・座礼の確認		ペア	
		来近07/14 · 化丛	試験	の柔道場への入り方	•出方	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
2		投技(手技)1		浮落・背負投の習得		ペア	
3		投技(手技)2		肩車の習得		ペア	
4		投技(腰技)1		浮腰の習得		ペア	
5		投技(腰技)2		払腰の習得		ペア	
,		仅仅(按仅/2		仏族の目付			
6		投技(腰技)3		釣込腰の習得		ペア	
7		投技(足技)1		送足払の習得		ペア	
						•°=7	
8		投技(足技)2 	支釣込足の習得 			ペア	
9		投技(足技)3		内股の習得			
					ペア		
10		乱取1	受・取での技の習得 1 ペ				
		71 T- 4		_	. —		
11		乱取2	5	2	ペア		
12		乱取3	受・取での技の習得 3			ペア	
		MO-1940					
13		乱取4	į	受・取での技の習得 4			
14		実技試験				ペア	
15		解説•再試				ペア	
15		丹牛 5元 ° 173 5二、					
期末			 評価方法	実技試験	90%		
試験		Ta41_4.1	h 1 11mm 5 2 5mm	受講態度	10%		
【教和	科書】	特になし					
		講道館柔道 投形 DVD					
【参	考書】						
【授業時	間外に必		建康管理を十分にし	て、欠席しないように	 努める。		

【質問方法】

教員室にて

【科目名]	【担当教員】			【科目責任者】
関係法規		村瀬 広行			担任
※実務経験のある教員等による授業科目		整骨院(柔道整復師)10年勤務			担任
【対象学科】 【学年】		【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科 3		前期	15(30)	講義	2

柔道整復師法、医療法について理解を深めるとともに、医師法をはじめとする医療従事者関係法規の内容について理解する。また、柔道整復師の受領委任制度、国民医療費など近年着目されている内容についても学習する。

【学習目標(到達目標)】

①柔道整復師の業務を行う上で必要不可欠である関係法規について理解する。

- ②社会保険制度を理解し、その財源や問題点を知る。
- ③医療事故の概要について理解し、危機管理という観点を身に着ける。
- ④個人情報の保護について理解し、学生の段階から日常生活において意識する。

(5)

知識·理解 問題解決力

【受講して得られる力】

【履修上の注意】

■ /IX I'> -						
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業 <i>σ</i>)内容•目標(使用教	材等)	授業方法
1	序論		法の意義、	個人		
'			(インフォームド・コンセ	ント、医療事故と医療過	誤、リスクマネジメント)	他人
2	柔道整征	复師法とその関連内容	総則、免討	、柔道整復師国家記	式験、業務	個人
2			(教科書①p10~	28の内容を読み、要	点を理解する。)	他人
3	柔道整征	复師法とその関連内容	施術所、広告	5、罰則、指定登録機	とと とり と	個人
3			(教科書①p29~	44の内容を読み、要	点を理解する。)	個人
4	柔道整征	复師法とその関連内容	F	医療従事者の資格法	₹	個人
7			(教科書①p29~	44の内容を読み、要	点を理解する。)	心
5	関係法規	見	F	医療従事者の資格法	₹	個人
J			(教科書①p47~	65の内容を読み、要	点を理解する。)	個人
6	関係法規	見	医療法(総則、医療	を提供施設、情報の関	開示、安全の確保)	個人
0			(教科書①p66~	87の内容を読み、要	点を理解する。)	個人
7	社会保障	倹関係法規	社会	保障制度、国民医療	療費	個人
			(教科書②p1~	9の内容を読み、要点	点を理解する。)	他人
8	社会保障	保険関係法規 健康保険法、国民健康保険法の目的、定義				個人
0			(教科書①p93~95、(②p10~13の内容を読み	、要点を理解する。)	個人
9	社会保障	倹関係法規	後期高齢者医療制度の概要			個人
3			(教科書①p95~97の内容を読み、要点を理解する。)			心人
10	社会保障	食関係法規	介護保険法の概要			個人
10			(教科書①97~99、②p6の内容を読み、要点を理解する。)			個八
11	柔道整征	复師業務における療養費	療養費制	療養費制度の概要、支給申請書の記載		
			(教科書②p19~48の内容を読み、要点を理解する。			個人
12	その他の	D関係法規	個人'	青報の保護に関する	法律	個人
			(教科書①p101~104、②p63~65の内容を読み、要点を理解する。)			
13	職業倫理	里		要な基本的倫理観の	-	個人
			(教科書②p49~556	の内容をもとに、ディス	スカッションを行う。)	四八
14	職業倫理	里	-	復師の社会的責任		個人
			(教科書②p56~620	の内容をもとに、ディス	スカッションを行う。)	四八
15	まとめ			これまでの復習		個人
期末			評価方法	筆記試験	90%	
試験				受講態度	10%	
【数	【教科書】 (公社)全国柔道整復師協会 監修 『関係法規』2021年度版 (医歯薬出版)					
(公社)全国柔道整復師協会 監修 『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』(医歯薬出版)					(出版)	
【参	考書】	特になし				
【授業時	時間外に必	要な学習の具体的内容】専門基礎	(公衆衛生学)			

【本講義に関しての質問先】担当教員

【質問方法】

教員室にて

3. 専門分野

	【科目名】			【担当教員】		【科目責任者】	
基礎柔	は道整復セミナ	(1/7)		髙橋 洋一		担任	
【対象学	科】	【学年】	 【開講時期】	【開講時期】 【回数(時間)】 【授業形態】			
メディカルスポーツ柔:		3	前期	105(210)	講義	態】 【単位】 7	
【授業の概要・目	目的】						
3年間の柔道整	復学の基礎を	そ総合的に理解	する。				
【学習目標(到達	産目標)】					【受講して得られる力】	
			に必要な基礎的知識			知識•理解	
②選択肢を掘り ③	下げていくこ	とで他分野との	共通点をみつけ総合	力を身につける。			
4							
5							
【履修上の注意】]		_			1	
回数 授	く 業のテーマ(担当教員)	授業の	の内容・目標(使用教	材等)	授業方法	
1	柔道整征	复学		基礎的知識1		個人	
2	柔道整征	复学		基礎的知識2		個人	
3	柔道整征	复学		基礎的知識3		個人	
4	柔道整征	复学		基礎的知識4			
5	柔道整征	复学		基礎的知識5		個人	
6	柔道整征	复学		基礎的知識6			
7	柔道整征	复学		基礎的知識7			
8	柔道整征	复学		基礎的知識8		個人	
9	柔道整征	复学		個人			
10	柔道整征	复学	基礎的知識10			個人	
11	柔道整征	复学		基礎的知識11			
12	柔道整征	复学		基礎的知識12			
13	柔道整征	复学		基礎的知識13		個人	
14	柔道整征	复学		基礎的知識14		個人	
15	柔道整征	复学		基礎的知識15		個人	
期末 試験	卒業試	験	評価方法	筆記試験	100%	'	
【教科書】	全ての科目	の教科書	•	•	l		
【参考書】	柔道整復師	国家試験過去	問題集				
【授業時間外に必		的内容】国家試	験の出題傾向と対策				
【本講義に関して	の質問先】学	科教員	【質問方法】	教員室にて			

	【科目名】			【担当教員】		【科目責任者】		
基礎柔	を道整復セミナ	·—(2/7)		髙橋 洋一		担任		
【対象学	'科】	【学年】	【開講時期】	【開講時期】 【回数(時間)】 【授業形態】				
メディカルスポーツ柔		3	前期	105(210)	講義	7		
【授業の概要・同	目的】							
3年間の柔道整	後学の基礎を	総合的に理解	する。					
【学習目標(到達	達目標)】				【受記	構して得られる力】		
			に必要な基礎的知識			知識•理解		
2)選択放を掘り 3)	ノトけていくこと	こで他分野との	共通点をみつけ総合	刀を身につける。				
<u>4</u>								
5	_							
【履修上の注意			ᅜᅁᄱᅷ		++**	TO # /-		
回数 哲	受業のテーマ(技業(の内容・目標(使用教	<u>例</u> 寺)	授業方法		
1	柔道整復	夏学 		基礎的知識1		個人		
2	柔道整復	夏学		基礎的知識2		個人		
3	柔道整復	夏学		基礎的知識3		個人		
4	柔道整復	夏学		基礎的知識4				
5	柔道整復	夏学		基礎的知識5		個人		
6	柔道整復	夏学		基礎的知識6				
7	柔道整復	夏学		基礎的知識7				
8	柔道整復	夏学		基礎的知識8				
9	柔道整復	夏学		基礎的知識9				
10	柔道整復	夏学		基礎的知識10				
11	柔道整復	夏学		基礎的知識11				
12	柔道整復	夏学		基礎的知識12		個人		
13	柔道整復	 夏学		基礎的知識13		個人		
14	柔道整復	夏学		基礎的知識14		個人		
15	柔道整復	夏学		基礎的知識15		個人		
期末 試験	卒業試	験	評価方法	筆記試験	100%			
【教科書】	全ての科目	の教科書	•		1			
【参考書】	柔道整復師	国家試験過去	問題集					
	要な学習の具体に	的内容】国家試	験の出題傾向と対策					
本講義に関して	の質問先】学	科教員 	【質問方法】	教員室にて				

	【科目名】			【担当教員】		【科目責任者】	
基礎多	柔道整復セミナ	- (3/7)		田代 洋司		担任	
 【対象学	4科】	【学年】	 【開講時期】	【開講時期】 【回数(時間)】 【授業形態】			
メディカルスポーツ柔		3	前期	105(210)	講義	】 【単位】 7	
【授業の概要・	目的】						
3年間の柔道整	を復学の基礎を	を総合的に理解	する。				
【学習目標(到	達目標)】				Ţ.	受講して得られる力】	
			に必要な基礎的知識			知識•理解	
②選択肢を掘り ③	リ下げていくこ	とで他分野との	共通点をみつけ総合	力を身につける。			
4							
5							
【履修上の注意			_		•		
回数	受業のテーマ(担当教員)	授業の	の内容・目標(使用教	(材等)	授業方法	
1	柔道整征	复学		基礎的知識1		個人	
2	柔道整征	复学		基礎的知識2		個人	
3	柔道整征	復学		基礎的知識3		個人	
4	柔道整征	复学		基礎的知識4			
5	柔道整征	复学		基礎的知識5		個人	
6	柔道整征	复学		基礎的知識6			
7	柔道整征	复学		基礎的知識7			
8	柔道整征	復学		基礎的知識8		個人	
9	柔道整征	復学		個人			
10	柔道整征	復学	基礎的知識10			個人	
11	柔道整征	復学		基礎的知識11			
12	柔道整征	復学		基礎的知識12			
13	柔道整征	復学		基礎的知識13		個人	
14	柔道整征	復学		基礎的知識14		個人	
15	柔道整征			基礎的知識15		個人	
期末 試験	卒業討	は験	評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】	全ての科目	の教科書	•	•	1		
【参考書】	柔道整復師	「国家試験過去	問題集				
【授業時間外に必	 要な学習の具体	的内容】国家試	験の出題傾向と対策				
【本講義に関して	ての質問先】学	4科教員	【質問方法】	教員室にて			

	【科目名】			【担当教員】			【科目責任者】
基礎	柔道整復セミナ	(4/7)		片桐 秀樹			担任
	学科】	【学年】	 【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形	態】	【単位】
メテ゛ィカルスホ゜ーツ	柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	Š	7
【授業の概要	•目的】						
3年間の柔道	整復学の基礎を	を総合的に理解	する。				
【学習目標(至							て得られる力】
			に必要な基礎的知識			知]識•理解
2)選択放を掘 3	り下げていくこ	とで他分野との	共通点をみつけ総合 _。	刀を身につける。			
<u>4</u>							
5							
【履修上の注意			_		-	1	
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の	の内容・目標(使用教	材等)		授業方法
1	柔道整征	复学		基礎的知識1			個人
2	柔道整征	复学		基礎的知識2			個人
3	柔道整征	复学		基礎的知識3			個人
4	柔道整征	复学		基礎的知識4			
5	柔道整征	復学		基礎的知識5			
6	柔道整征	复学	基礎的知識6				個人
7	柔道整征	复学		基礎的知識7			個人
8	柔道整征	复学		基礎的知識8			個人
9	柔道整征	復学		基礎的知識9			
10	柔道整征	复学	基礎的知識10				個人
11	柔道整征			基礎的知識11			個人
12	柔道整征	复学		基礎的知識12			個人
13	柔道整征			基礎的知識13			個人
14	柔道整征			基礎的知識14			個人
15	柔道整征	复学	基礎的知識15				個人
期末 試験	卒業試	験	筆記試験 100% 評価方法				
【教科書】	全ての科目	の教科書			•		
【参考書】	柔道整復師	5国家試験過去[問題集				
	 必要な学習の具体	的内容】国家試	験の出題傾向と対策				
本講義に関し	ての質問先】学	4科教員	【質問方法】	教員室にて			

	【科目名】			【担当教員】		【科目責任者】	
基礎柔	道整復セミナ	 (5/7)		成田 昌健		担任	
【対象学	科】	【学年】	 【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
メディカルスポーツ柔シ		3	前期	105(210)	講義	7	
【授業の概要・目	的】					•	
3年間の柔道整	復学の基礎を	と総合的に理解:	する。				
【学習目標(到達	[目標]				【受	講して得られる力】	
			に必要な基礎的知識			知識•理解	
②選択肢を掘り ③	下げていくこ	とで他分野との	共通点をみつけ総合	力を身につける。			
4							
5							
【履修上の注意】			_		·		
回数 授	業のテーマ(担当教員)	授業の	の内容・目標(使用教	材等)	授業方法	
1	柔道整征	复学		基礎的知識1		個人	
2	柔道整征	复学		基礎的知識2		個人	
3	柔道整征	复学		基礎的知識3		個人	
4	柔道整征	复学		個人			
5	柔道整征	复学		基礎的知識5			
6	柔道整征	复学		基礎的知識6		個人	
7	柔道整復学			基礎的知識7		個人	
8	柔道整征	复学		個人			
9	柔道整征	复学		個人			
10	柔道整征	复学		個人			
11	柔道整征	复学		基礎的知識11			
12	柔道整征	复学		基礎的知識12		個人	
13	柔道整征	复学		基礎的知識13		個人	
14	柔道整征	复学		基礎的知識14		個人	
15				基礎的知識15		個人	
期末 試験			評価方法	筆記試験 100% 評価方法			
【教科書】	全ての科目	の教科書	•	•	l		
【参考書】	柔道整復師	i国家試験過去	問題集				
【授業時間外に必要	ュ 要な学習の具体	的内容】国家試	験の出題傾向と対策				
【本講義に関して	の質問先】学	科教員	【質問方法】	教員室にて			

	【科目名】			【担当教員】			【科目責任者】	
基礎	楚柔道整復セミナ	⊢ —(6/7)		村瀬 広行			担任	
 【対象	学科】	【学年】	 【開講時期】	【回数(時間)】		態】	【単位】	
	柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義		7	
【授業の概要	・目的】							
3年間の柔道	[整復学の基礎を	を総合的に理解 ⁻	する。					
【学習目標(到	到達目標)】					【受講して	得られる力】	
			に必要な基礎的知識			知諳	战•理解	
②選択肢を排 ③	囲り下げていくこ	とで他分野との	共通点をみつけ総合 _.	力を身につける。				
<u>4</u>								
<u>5</u>								
【履修上の注	_		_					
回数	授業のテーマ((担当教員)	授業の	の内容・目標(使用教	材等)		授業方法	
1	柔道整征	復学		基礎的知識1			個人	
2	柔道整征	復学		基礎的知識2			個人	
3	柔道整征	復学		基礎的知識3			個人	
4	柔道整征	復学		基礎的知識4				
5	柔道整征			基礎的知識5				
6	柔道整征		基礎的知識6				個人	
7	柔道整征			基礎的知識7			個人	
8	柔道整征	復学		基礎的知識8			個人	
9	柔道整征	復学			個人			
10	柔道整征	復学	基礎的知識10				個人	
11	柔道整征	復学		基礎的知識11				
12	柔道整征	復学		基礎的知識12			個人	
13	柔道整征			基礎的知識13			個人	
14	柔道整征			基礎的知識14			個人	
15	柔道整征	復学	基礎的知識15				個人	
期末 試験				筆記試験 100% 評価方法				
【教科書】	全ての科目	の教科書			1			
【参考書】	柔道整復師	市国家試験過去 「	問題集					
【授業時間外に	必要な学習の具体	的内容】 国家試	験の出題傾向と対策					
本講義に関し	しての質問先】学	幹科教員	【質問方法】	教員室にて				

	【科目名】			【担当教員】		【科目責任者】	
基礎柔	:道整復セミナ	(7/7)		三上 将貴		担任	
【対象学	科】	【学年】	 【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
メディカルスポーツ柔シ		3	前期	105(210)	講義	7	
【授業の概要・目	的】						
3年間の柔道整	復学の基礎を	そ総合的に理解	する。				
【学習目標(到達	[目標]				【受	を講して得られる力】	
			に必要な基礎的知識			知識•理解	
②選択肢を掘り ③	下げていくこ	とで他分野との	共通点をみつけ総合.	力を身につける。			
4							
5							
【履修上の注意】			_		·		
回数 授	業のテーマ(担当教員)	授業の	の内容・目標(使用教	:材等)	授業方法	
1	柔道整征	复学		基礎的知識1		個人	
2	柔道整征	复学		基礎的知識2		個人	
3	柔道整征	复学		基礎的知識3		個人	
4	柔道整征	复学		基礎的知識4			
5	柔道整征	复学		個人			
6	柔道整復学 基础			個人			
7	柔道整復学			基礎的知識7		個人	
8	柔道整征	复学		基礎的知識8			
9	柔道整征	复学		個人			
10	柔道整征	复学	基礎的知識10			個人	
11	柔道整征	复学		基礎的知識11			
12	柔道整征	复学		基礎的知識12			
13	柔道整征	复学		基礎的知識13		個人	
14	柔道整征	复学		基礎的知識14		個人	
15	柔道整征	复学		基礎的知識15			
期末 試験			評価方法	筆記試験 100% 評価方法			
【教科書】	全ての科目	の教科書	•	•	l		
【参考書】	柔道整復師	i国家試験過去[問題集				
【授業時間外に必要	■ 要な学習の具体	的内容】国家試	験の出題傾向と対策				
【本講義に関して	の質問先】学	科教員	【質問方法】	教員室にて			

【科目名】				【担当教員】				
醅	まままま はまま はまま はまま はまま はっぱい はんしょう はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ	ミナー(1/7)		片桐 秀樹			担任	
ŢŻ	対象学科】	 【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	 【授業	形態】	【単位】	
ディカルスホ	ーツ柔道整復学科	3 後期 105(210) 講義					7	
	乗道整復学を総合 ・ (エルナロボ)	的に理解する。				.		
	票(到達目標)】	、一、小士七十2階に		ナウー・リフ			して得られる力】	
-			こ必要な臨床的知識				知識・理解	
			度な知識を把握する				としてのスキル・意識	
シ臨床の 4)	場で圧しい計画が	、田木のより、	診断が出来るよう総	後百りる。		-	問題解決力 考え抜く力	
4) 5)								
<u></u>)注意】					,	一ムで働く力	
回数	授業のテーマ	(担当教員)	授業(の内容・目標(使用教	材等)		授業方法	
1	柔道整復	学 理論	一般臨床系知識1				グループ	
2	柔道整復	学 理論	一般臨床系知識2				グループ	
3	柔道整復	学 理論	一般臨床系知識3				グループ	
4	柔道整復	学 理論		一般臨床系知識4				
5	柔道整復	学 理論		一般臨床系知識5			グループ	
6	柔道整復	学 理論		一般臨床系知識6			グループ	
7	柔道整復	学 理論		一般臨床系知識7			グループ	
8	柔道整復	学 理論		一般臨床系知識8			グループ	
9	柔道整復	学 理論		一般臨床系知識9			グループ	
10	柔道整復	学 理論	一般臨床系知識10			グループ		
11	柔道整復	 学 理論	一般臨床系知識11			グループ		
12	柔道整復		一般臨床系知識12				グループ	
13	柔道整復			一般臨床系知識13			グループ	

13	柔道整復学 理論	一般臨床系知識13	グループ
14	柔道整復学 理論	一般臨床系知識14	グループ

15	柔道整復学 理論	一般臨床系知識15	グループ
期末			<u> </u>

 期末 試験
 卒業試験
 評価方法

 全ての科目の教科書

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】国家試験の出題傾向と対策

【科目名】				【担当教員】			【科目責任者】	
臨月	末柔道整復学セ	ミナー(2/7)		髙橋 洋一			担任	
	象学科】	 【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	 【授業	形態】	【単位】	
゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゚゚゚゙゚゚゚゚゙゚゚゙゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	ツ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講	義	7	
学習目標()柔道整復)専門基礎	を分野の学習内容	いて治療をする際に 字を反復し、より高	こ必要な臨床的知識 度な知識を把握する	5.		専門職の	して得られる力】 知識・理解 としてのスキル・意識	
36端床の場 (1) (5) (履修上の)		出来るよう、鑑別語	诊断が出来るよう総 	後百9句。			問題解決力 考え抜く力 一ムで働く力	
回数	<u>+©4</u> 授業のテーマ	(担当教員)	授業(授業の内容・目標(使用教材等)				
1	柔道整復!	学 理論	外科的臨床知識1				グループ	
2	柔道整復	学 理論	外科的臨床知識2				グループ	
3	柔道整復	学 理論	外科的臨床知識3				グループ	
4	柔道整復	学 理論		外科的臨床知識4				
5	柔道整復	学 理論		外科的臨床知識5			グル一プ	
6	柔道整復	学 理論		外科的臨床知識6			グループ	
7	柔道整復	学 理論		外科的臨床知識7			グループ	
8	柔道整復	学 理論		外科的臨床知識8			グループ	
9	柔道整復:			外科的臨床知識9			グループ	
10	柔道整復!		外科的臨床知識1O			グループ		
11	柔道整復!	学 理論	外科的臨床知識11				グループ	
12	柔道整復:		外科的臨床知識12				グループ	
13	柔道整復	学 理論		外科的臨床知識13			グループ	

13柔道整復学 理論外科的臨床知識13グループ14柔道整復学 理論外科的臨床知識14グループ

15 柔道整復学 理論 外科的臨床知識15 グループ 第記試験 100%

【教科書】 全ての科目の教科書

【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策

	【科目名】]		【担当教員】					
B	臨床柔道整復学セ	ミナー(3/7)		田代 洋司			担任		
[対象学科】	 【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】		形態】	【単位】		
	ポーツ柔道整復学科	3	後期	後期 105(210) 講義					
学習目 ①柔道 ②専門基	基礎分野の学習内容	いて治療をする際(容を反復し、より高	こ必要な臨床的知識 「度な知識を把握する 診断が出来るよう総	5.		専門職	して得られる力】 知識・理解 としてのスキル・意識 問題解決力 考え抜くカ ームで働く力		
	の注意】					,	授業方法		
回数	授業のテーマ	(担当教員)	授業(授業の内容・目標(使用教材等)					
1	柔道整復	学 理論	5	グループ					
2	柔道整復	学 理論	整形外科的臨床知識2				グループ		
3	柔道整復	学 理論	PA -	整形外科的臨床知識3					
4	柔道整復	学 理論	E.	整形外科的臨床知識	4		グループ		
5	柔道整復	学 理論	EV.	整形外科的 臨床知識	5		グループ		
6	柔道整復	学 理論	P. P.	整形外科的臨床知識	6		グループ		
7	柔道整復	学 理論	EV.	整形外科的臨床知識	7		グループ		
8	柔道整復	学 理論	PA .	整形外科的臨床知識	1		グループ		
9	柔道整復	学 理論	EV.	整形外科的臨床知識2					
10	柔道整復	学 理論	EV.	整形外科的臨床知識3					
11	柔道整復	学 理論	EV.	整形外科的臨床知識4					
12	柔道整復	学 理論	整形外科的臨床知識5				グループ		
13	柔道整復	 学 理論	5	整形外科的臨床知識6					

 15
 柔道整復学 理論
 整形外科的臨床知識8
 グループ

 期末 試験
 卒業試験
 評価方法
 筆記試験
 100%

整形外科的臨床知識7

グループ

【教科書】

全ての科目の教科書

柔道整復学 理論

【参考書】

14

柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】国家試験の出題傾向と対策

【科目名】				【担当教員】			【科目責任者】
E	ニ床柔道整復学セ	ミナー(4/7)		三上 将貴			担任
[5	対象学科】	 【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】		形態】	【単位】
<u>ーー</u> 「テ゛ィカルス†	ぺ−ツ柔道整復学科	3	後期	後期 105(210) 講義			7
	既要・目的】 柔道整復学を総合	的に理解する。					
D柔道整 D専門基 B)臨床の	礎分野の学習内	容を反復し、より高	- 必要な臨床的知識 度な知識を把握する 诊断が出来るよう総	0		専門職の	して得られる力】 知識・理解 としてのスキル・意識 問題解決力 考え抜くカ
5) 【履修上(か注音】					ナ	一ムで働くカ
回数	<u>//注息』 </u> 授業のテーマ	7(扣当教員)	授業の) 內内容·目標(使用教	(材等)		授業方法
1	柔道整復		授業の内容・日標(使用教科等) 公衆衛生的臨床知識1				グループ
2	柔道整復	学 理論	公衆衛生的臨床知識2				グループ
3	柔道整復	学 理論	公衆衛生的臨床知識3				グループ
4	柔道整復	学 理論	4	公衆衛生的臨床知識4			
5	柔道整復	学 理論	4	〉 衆衛生的臨床知識	5		グループ
6	柔道整復	学 理論	4	公衆衛生的臨床知識	6		グループ
7	柔道整復	学 理論	4	公 衆衛生的臨床知識	7		グループ
8	柔道整復	学 理論	'	Jハビリ的臨床知識	1		グループ
9	柔道整復	学 理論	'	ノハビリ的臨床知識:	2		グループ
10	柔道整復	学 理論	'	リハビリ的臨床知識3			グループ
11	柔道整復	学 理論	'	リハビリ的臨床知識	4		グループ
12	柔道整復	学 理論	リハビリ的臨床知識5				グループ
13	柔道整復	学 理論	ı	ノハビリ的臨床知識(5		グループ

【教科書】

14

15

期末

試験

全ての科目の教科書

柔道整復学 理論

柔道整復学 理論

卒業試験

【参考書】

柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】学科教員

【質問方法】

評価方法

教員室にて

リハビリ的臨床知識7

リハビリ的臨床知識8

筆記試験

100%

グループ

グループ

	【科目名】]		【担当教員】			【科目責任者】	
	臨床柔道整復学セ	ミナー(5/7)		福 安喜			担任	
l	対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	 【授業	形態】	【単位】	
リディカルス	ポーツ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講	 義	7	
	概要・目的】	的に理解する。						
	標(到達目標)】						して得られるカ】	
-			に必要な臨床的知識				知識・理解	
			写度な知識を把握する 				としてのスキル・意識	
	り場で止しい評価か	、出来るよう、鑑別	診断が出来るよう総	復省する。			問題解決力 考え抜く力	
<u>5</u> 「屍收 ►	の注意】					 	一ムで働く力	
回数	<u>の注息』 </u> 授業のテーマ	*(————————————————————————————————————		お生い		授業方法	
凹数	技术のナーマ	(坦コ狄貝/	授未(ルバ台・日保(使用名	শাস কা		1文未刀 広	
1	柔道整復	学 理論	E	臨床柔道整復術知識1				
2	柔道整復	学 理論	E	臨床柔道整復術知識2				
3	柔道整復	学 理論	E	臨床柔道整復術知識3				
4	柔道整復	学 理論	E	a床柔道整復術知識	4		グループ	
5	柔道整復	学 理論	E	a床柔道整復術知識	5		グループ	
6	柔道整復	学 理論	E	a床柔道整復術知識	6		グループ	
7	柔道整復	学 理論	E	临床柔道整復術知識	7		グループ	
8	柔道整復	学 理論	E	临床柔道整復術知識	8		グループ	
9	柔道整復	学 理論	E	臨床柔道整復術知識9				
10	柔道整復	学 理論	臨床柔道整復術知識10 グルー				グループ	
11	柔道整復	学 理論	臨床柔道整復術知識11 グル-					
12	柔道整復	学 理論	路	臨床柔道整復術知識12				

8		柔道整復学 理論	既	床柔道整復術知識8		グループ
9		柔道整復学 理論	EX	a床柔道整復術知識9		グループ
10		柔道整復学 理論	臨	グループ		
11		柔道整復学 理論	臨	グループ		
12		柔道整復学 理論	臨	グループ		
13		柔道整復学 理論	臨	グループ		
14		柔道整復学 理論	臨	ļ	グループ	
15		柔道整復学 理論	臨床柔道整復術知識15			グループ
期末 試験		卒業試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教	(科書)	全ての科目の教科書				
【参	考書】	柔道整復師国家試験過去問	題集			

【質問方法】

教員室にて

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】学科教員

	【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】		
踣	床柔道整復学セ	ミナー(6/7)	福 安喜			担任		
ŢŻ	対象学科】	 【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	「形態」	【単位】	
ディカルスホ	゚−ツ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講義		7	
	を道整復学を総合 票(到達目標)】	的に理解する。				【妥講	して得られる力】	
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ハ て治療をする際に	ニ必要な臨床的知識	を身につける			知識・理解	
-			=める臨床の流版 度な知識を把握する				んぱ マガ としてのスキル・意識	
-			診断が出来るよう総				問題解決力	
4	2						考え抜く力	
<u> </u>							った扱くカ 一ムで働く力	
【履修上0	D注意】					1		
回数	授業のテーマ	(担当教員)	授業(の内容・目標(使用教	(材等)		授業方法	
1	柔道整復	学 理論		関係法規知識1			グループ	
2	柔道整復	学 理論		関係法規知識2			グループ	
3	柔道整復	学 理論		関係法規知識3			グループ	
4	柔道整復	学 理論		関係法規知識4			グループ	
5	柔道整復	学 理論		関係法規知識5			グループ	
6	柔道整復	学 理論		関係法規知識6			グループ	
7	柔道整復	学 理論		関係法規知識7			グループ	
8	柔道整復	学 理論		関係法規知識8			グループ	
9	柔道整復	学 理論		関係法規知識9			グループ	
10	柔道整復			関係法規知識10			グループ	
11	柔道整復		関係法規知識11			グループ		
12	柔道整復	学 理論		関係法規知識12			グループ	
13	柔道整復	学 理論		関係法規知識13			グループ	

13	柔道整復学 理論	関係法規知識13	グループ
14	柔道整復学 理論	関係法規知識14	グループ

 15
 柔道整復学 理論
 関係法規知識15
 グループ

 期末
 事記試験
 100%

【教科書】 全ての科目の教科書

柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策

	【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】	
既	床柔道整復学セ	ミナー(7/7)		村瀬 広行			担任
[\$	対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業	形態】	【単位】
「テ゛ィカルスホ	゚゚ーッ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講義		7
学習目標	礎分野の学習内容	ヽて治療をする際に 卒を反復し、より高ノ	び要な臨床的知識 度な知識を把握する 多断が出来るよう総	5.		専門職。	して得られる力】 知識・理解 としてのスキル・意識 問題解決力 考え抜く力
5	7.注本1					チ	一ムで働く力
【履修上0 回数	^{グ注息】} 授業のテーマ	(担当教員)	授業(の内容・目標(使用教	材等)		授業方法
1	柔道整復	学 理論		柔道系知識1			グループ
2	柔道整復	学 理論		柔道系知識2			グループ
3	柔道整復	学 理論		柔道系知識3			グループ
4	柔道整復	学 理論		柔道系知識4			グループ
5	柔道整復	学 理論		柔道系知識5			グループ
6	柔道整復	学 理論		医療概論系知識1			グループ
7	柔道整復	 学 理論		医療概論系知識2			グループ
8	柔道整復	学 理論		医療概論系知識3			グループ
9	柔道整復	学 理論		医療概論系知識4			グループ
10	柔道整復	学 理論		医療概論系知識5			グループ
11	柔道整復	 学 理論	社会保障系知識1			グループ	
12	柔道整復			社会保障系知識2			グループ
13	柔道整復			社会保障系知識3			グループ

13	柔道整復学 理論	社会保障系知識3	グループ
14	柔道整復学 理論	社会保障系知識4	グループ

社会保障系知識5

グループ

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%	

【教科書】 全ての科目の教科書

15

【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集

柔道整復学 理論

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】国家試験の出題傾向と対策

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床的判断(画	伊 田級)		担任		
一直を見る。	18年件/				1년 III
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	15(30)	講義	1

柔道整復師が関与する運動器の臨床画像(MRI、CT、X-P、超音波)について、基本的撮影方法~医師の読影方法まで理解 し、臨床現場での対応力を高める。

【学習目標(到達目標)】

【受講して得られる力】 考え抜く力

- ①各種画像診断装置の名称およびしくみを理解する。

【本講義に関しての質問先】担当教員

4

(5)

②各種画像診断装置の撮影方法を理解する。 問題解決力 ③各種画像診断装置の読影方法を理解する。

【履修上の注意】

回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	各種画像	象診断装置の種類と特長	MRI、CT、X-P、超	音波画像の特徴と違い	について学ぶ。	グループ
2	各種画像	象診断装置の注意点	装置および画像	装置および画像の取り扱いについて注意点を学ぶ。		
3	各種画像	診断装置の撮影と読影方法①	MRIの撮影	および読影方法につい	て学ぶ。	グループ
4	各種画像	診断装置の撮影と読影方法②	CTの撮影	および読影方法につい	て学ぶ。	グループ
5	各種画像	診断装置の撮影と読影方法③	X−Pの撮影	および読影方法につい	て学ぶ。	グループ
6	各種画像	診断装置の撮影と読影方法④	X−Pの撮影	および読影方法につい	て学ぶ。	グループ
7	各種画像	診断装置の撮影と読影方法⑤	X−Pの撮影	および読影方法につい	て学ぶ。	グループ
8	各種画像	診断装置の撮影と読影方法⑥	超音波画像の撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
9	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑦		超音波画像の撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
10	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑧		超音波画像の撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
11	臨床画像判断①		MRI画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。			グループ
12	臨床画像	東判断①	CT画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。			グループ
13	臨床画像	東判断①	X-P画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。			グループ
14	臨床画像判断①		超音波画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。			グループ
15	総まとめ			復習		グループ
期末 試験			評価方法	レポート 受講態度	80% 20%	
【教	【教科書】 (公社)全国柔道整復師協会 (公社)全国柔道整復師協会				(南江堂) (南江堂)	
【参	【参考書】 特になし 「参考書」					
【授業時	【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識					

【質問方法】

教員室にて

【科目名】		【担当教員】			
柔道整復実技セミナー(1/7)		中島 嘉和			
【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
3	前期	105(210)	講義	7	
	ナー(1/7)	ナー(1/7) 【学年】 【開講時期】	ナー(1/7) 中島 嘉和 【学年】 【開講時期】 【回数(時間)】	ナー(1/7) 中島 嘉和 【学年】 【開講時期】 【回数(時間)】 【授業形態】	

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】

- ①上肢の骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。
- ②臨床的整復・固定を修得する。
- ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。

4

(5)

【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力

【腹修_	上の汪恵」	<u> </u>			
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業の	D内容·目標(使用教材等)	授業方法
1	上肢の骨折 鎖骨骨折の診察及び			折の診察及び整復・固定①	ペア・グループ
2		上肢の骨折	鎖骨骨	折の診察及び整復・固定②	ペア・グループ
3		上肢の骨折	鎖骨骨	折の診察及び整復・固定③	ペア・グループ
4		上肢の骨折	鎖骨骨	折の診察及び整復・固定④	ペア・グループ
5		上肢の骨折	上腕骨外	ト科頸骨折の診察及び整復①	ペア・グループ
6		上肢の骨折	上腕骨外	ト科頸骨折の診察及び整復②	ペア・グループ
7		上肢の骨折	上腕骨外	ト科頸骨折の診察及び整復③	ペア・グループ
8	上肢の骨折		上腕骨外	ト科頸骨折の診察及び整復④	ペア・グループ
9	上肢の骨折		コーレス	ペア・グループ	
10	上肢の骨折		コーレス	ペア・グループ	
11		上肢の骨折	コーレス	ペア・グループ	
12		上肢の骨折	コーレス	ペア・グループ	
13		実技試験			個人
14		実技試験			個人
15		解説・再試			グループ
期末 試験		実技試験	評価方法	実技試験 100%	
F +1	. I . I . I	(公社)全国柔道整復師協会	監修『柔道整復	, 学•実技編』 改訂第2版 (南江堂)	
【教 	[科書]	(公社)全国柔道整復師協会			
【参	∹考書】	認定実技審査要領	2.5 . 5	- C PART PICTURE ATTACAMENT	
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。					
	【本講義に関しての質問先】学科教員 【質問方法】 教員室にて				
L T I T T T T T T T T T T T T T T T T T					

【科目名	【科目名】		【担当教員】		
柔道整復実技セミナー(2/7) 中島 嘉和			担任		
未担定後天牧じる	(2/1)				担江
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】

- ①上肢の骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。
- ②臨床的整復・固定を修得する。
- ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。

4

(5)

【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力

【/復] 珍_	【腹修工の注息】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法				
1	上肢の脱臼	肩関節前方脱臼の診察及び整復・固定①	ペア・グループ				
2	上肢の脱臼	肩関節前方脱臼の診察及び整復・固定②	ペア・グループ				
3	上肢の脱臼	肩関節前方脱臼の診察及び整復・固定③	ペア・グループ				
4	上肢の脱臼	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復・固定①	ペア・グループ				
5	上肢の脱臼	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復・固定②	ペア・グループ				
6	上肢の脱臼	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復・固定③	ペア・グループ				
7	上肢の脱臼	肘関節後方脱臼の診察及び整復・固定①	ペア・グループ				
8	上肢の脱臼	肘関節後方脱臼の診察及び整復・固定②	ペア・グループ				
9	上肢の脱臼	肘関節後方脱臼の診察及び整復・固定③	ペア・グループ				
10	上肢の脱臼	手第2指PIP関節背側脱臼の固定①	ペア・グループ				
11	上肢の脱臼	手第2指PIP関節背側脱臼の固定②	ペア・グループ				
12	上肢の脱臼	手第2指PIP関節背側脱臼の固定③	ペア・グループ				
13	実技試験		個人				
14	実技試験		個人				
15	解説・再試		グループ				
期末 試験	実技試験	実技試験 100% 評価方法					
₩ ±vi	(公社)全国柔道整復師協会	監修 『柔道整復学·実技編』 改訂第2版 (南江堂)					
【教	(公社)全国柔道整復師協会	監修『包帯固定学』改訂第2版(南江堂)					
【参	【参考書】						
【授業時	【授業時間外に必要な学習の具体的内容】認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。						
【本講義	【本講義に関しての質問先】学科教員 【質問方法】 教員室にて						
	.						

【科目名]	【担当教員】		【担当教員】		【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(3/7)			担任			
未担定後天牧じる	(3/7)					
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7	

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】

- ①上肢の骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。
- ②臨床的整復・固定を修得する。
- ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。

4

(5)

【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力

【/復] 昣□	【腹修工の注息】 							
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業の)内容•目標(使用教材等)	授業方法			
1		上肢の軟部組織損傷	肩腱	板損傷の診察および検査	ペア・グループ			
2		上肢の軟部組織損傷	肩	腰板損傷の鑑別診断	ペア・グループ			
3		上肢の軟部組織損傷	J	肩腱板損傷の固定法	ペア・グループ			
4		上肢の軟部組織損傷	上腕二頭	筋長頭腱損傷の診察及び検査	ペア・グループ			
5		上肢の軟部組織損傷	上腕二	頭筋長頭腱損傷の鑑別診断	ペア・グループ			
6		上肢の軟部組織損傷	上腕.	二頭筋長頭腱損傷の固定	ペア・グループ			
7		上肢の骨折	上腕骨骨	幹部骨折の診察および整復①	ペア・グループ			
8		上肢の骨折	上腕骨骨	幹部骨折の診察および整復②	ペア・グループ			
9	上肢の骨折 上腕骨骨幹部骨折の診察および整復③ ペア・グループ							
10	10 上肢の骨折 上腕骨骨幹部骨折の固定① ペア・グループ							
11	11 上肢の骨折 上腕骨骨幹部骨折の固定② ペア・グループ							
12		上肢の骨折	上豚	日 骨幹部骨折の固定③	ペア・グループ			
13		実技試験			個人			
14		実技試験			個人			
15		解説・再試			グループ			
期末 試験								
F 401								
【教	[科書]	(公社)全国柔道整復師協会	監修『包帯固定	学』改訂第2版 (南江堂)				
	:考書】	認定実技審査要領						
【授業時	間外に必要	要な学習の具体的内容】認定実技	審査要領を熟読し、	1項目ごとしっかり理解する。				
		の質問先】学科教員	【質問方法】	教員室にて				
	【平碑我に因じての貝미兀】 十件教具 【貝미刀広】 教員主に							

【科目名]		【担当教員】		【科目責任者】
柔道整復実技セ	:+-(4/7)		片桐 秀樹		担任
未担定後天牧じる	(4/1)				
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】

- ①上肢の骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。
- ②臨床的整復・固定を修得する。
- ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。

4

(5)

【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力

回数	回数 授業のテーマ(担当教員) 授業の内容・目標(使用教材等) 授業方法								
1		体幹部の骨折	肋	骨骨折の診察及び固定	ペア・グループ				
2		体幹部の骨折		肋骨骨折の固定	ペア・グループ				
3		体幹部の骨折		肋骨骨折の固定	ペア・グループ				
4		体幹部の骨折		肋骨骨折の固定	ペア・グループ				
5		上肢の脱臼	Fi	付内障の診察及び整復	ペア・グループ				
6		上肢の脱臼	身	付内障の診察及び整復	ペア・グループ				
7		上肢の骨折	第5指中手	- 骨頸部骨折の診察及び整復①	ペア・グループ				
8		上肢の骨折	第5指中手	-骨頸部骨折の診察及び固定①	ペア・グループ				
9	上肢の骨折 第5指中手骨頸部骨折の診察及び整復② ペア・グルー								
10	10 上肢の骨折 第5指中手骨頸部骨折の診察及び固定② ペア・グループ								
11	11 上肢の骨折 第5指中手骨頸部骨折の診察及び整復③ ペア・グループ								
12		上肢の骨折	第5指中手	- 骨頸部骨折の診察及び固定③	ペア・グループ				
13		実技試験			個人				
14		実技試験			個人				
15		解説•再試			グループ				
期末 試験									
【教科書】 (公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学·実技編』 改訂第2版 (南江堂)									
130	11 7 = 1	(公社)全国柔道整復師協会	監修『包帯固定	学』改訂第2版 (南江堂)					
【参	考書】	認定実技審査要領							
【授業時	間外に必要	要な学習の具体的内容】認定実技	審査要領を熟読し	、1項目ごとしっかり理解する。					
【本講義	遠に関して	の質問先】学科教員	【質問方法】	教員室にて					

【科目名]		【担当教員】		【科目責任者】
柔道整復実技セミ	:+-(5/7)		田代 洋司		担任
** ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(3/7)				
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】

- ①上肢の骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。
- ②臨床的整復・固定を修得する。
- ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。

4

(5)

【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力

▲/復1/6-	【腹修工の注息】 							
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業	の内容・目標(使用教材等)	授業方法			
1		下肢の軟部組織損傷	ハムストリングス	損傷(肉ばなれ)の診察及び徒手検査	ペア・グループ			
2		下肢の軟部組織損傷	ハムストリング	、ス損傷(肉ばなれ)の診察及び固定	ペア・グループ			
3		下肢の軟部組織損傷	大腿四頭	頂筋打撲の診察及び徒手検査	ペア・グループ			
4		下肢の軟部組織損傷	大腿四	四頭筋打撲の診察及び固定	ペア・グループ			
5		下肢の軟部組織損傷	膝関節側副	副靭帯損傷の診察及び徒手検査	ペア・グループ			
6	6 下肢の軟部組織損傷 膝関節側副靭帯損傷の診察及び固定 ペア・グループ							
7		下肢の軟部組織損傷	膝関節十二	字靭帯損傷の診察及び徒手検査	ペア・グループ			
8		下肢の軟部組織損傷	膝関節-	十字靭帯損傷の診察及び固定	ペア・グループ			
9	下肢の軟部組織損傷 膝関節半月板損傷の診察及び徒手検査 ペア							
10	0 下肢の軟部組織損傷 膝関節半月板損傷の診察及び固定 ペア・グループ							
11	11 下肢の軟部組織損傷 膝関節内側側副靭帯損傷のテーピング固定① ペア・グループ							
12		下肢の軟部組織損傷	膝関節内側	側副靭帯損傷のテーピング固定②	ペア・グループ			
13		実技試験			個人			
14		実技試験			個人			
15		解説·再試			グループ			
期末 試験								
₽ ±vi	. I	(公社)全国柔道整復師協会	監修 『柔道整復					
【教	(科書】	(公社)全国柔道整復師協会	監修『包帯固定	学』 改訂第2版 (南江堂)				
【参	∹考書】	認定実技審査要領						
【授業時	計間外に必要	- 要な学習の具体的内容】認定実技	審査要領を熟読し	、1項目ごとしっかり理解する。				
		の質問先】学科教員	【質問方法】	教員室にて				
【平冊我に関しての具向元】子件教具 【具向力法】 教員主にて								

【科目名	【科目名】 【担当教員】 ····································			【科目責任者】	
柔道整復実技セ	S+—(6/7)		担任		
未追走後天汉に	(0/7)				
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】

- ①上肢の骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。
- ②臨床的整復・固定を修得する。
- ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。

4

(5)

【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力

【//浸1/9~	【復修工の注息】 							
回数	授	業のテーマ(担当教員)	授業の)内容•目標(使用教材等)	授業方法			
1		下肢の軟部組織損傷	膝関節半	月板損傷の診察及び徒手検査	ペア・グループ			
2		下肢の軟部組織損傷	膝関節半	4月板損傷の診察及び固定①	ペア・グループ			
3		下肢の軟部組織損傷	膝関節半	4月板損傷の診察及び固定②	ペア・グループ			
4		下肢の軟部組織損傷	下腿三頭	領筋損傷の診察及び徒手検査	ペア・グループ			
5		下肢の軟部組織損傷	下腿三	頭筋損傷の診察及び固定	ペア・グループ			
6		下肢の軟部組織損傷	アキレス	腱断裂の診察及び徒手検査	ペア・グループ			
7		下肢の軟部組織損傷	アキレ	ス腱断裂の診察及び固定①	ペア・グループ			
8		下肢の軟部組織損傷	アキレ	ス腱断裂の診察及び固定②	ペア・グループ			
9	下肢の骨折 下腿骨骨幹部骨折の診察及び整復① ペア・グループ							
10	10 下肢の骨折 下腿骨骨幹部骨折の診察及び固定① ペア・グループ							
11	11 下肢の骨折 下腿骨骨幹部骨折の診察及び整復② ペア・グループ							
12		下肢の骨折	下腿骨骨	幹部骨折の診察及び固定②	ペア・グループ			
13		実技試験			個人			
14		実技試験			個人			
15		解説・再試			グループ			
期末 試験								
F 401	. 1.J. === V	(公社)全国柔道整復師協会	監修 『柔道整復		堂)			
【教	[科書]	(公社)全国柔道整復師協会	監修『包帯固定	学』改訂第2版 (南江堂)				
	:考書】	認定実技審査要領						
【授業時	間外に必要	要な学習の具体的内容】認定実技	審査要領を熟読し、	1項目ごとしっかり理解する。				
		の質問先】学科教員	【質問方法】	教員室にて				
		1		I .				

【科目名	【科目名】 【担当教員】			【科目責任者】	
柔道整復実技セ	シナー(7/7)		髙橋 洋一		担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
【对象子件】	【子牛】	【刑碑时别】	【凹数(时间/】	【技术形态】	【中位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】

- ①上肢の骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。
- ②臨床的整復・固定を修得する。
- ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。

4

⑤

【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力

【履修上の	〕注意】	-	
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷の診察及び徒手検査	ペア
2	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷の診察及び固定①	ペア
3	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷の診察及び固定②	ペア
4	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷の診察及び固定③	ペア
5	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定①)	ペア
6	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定②)	ペア
7	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定③)	ペア
8	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定④)	ペア
9	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定⑤)	ペア
10	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定⑥)	ペア
11	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定⑦)	ペア
12	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定⑧)	ペア
13	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定⑨)	ペア
14	実技試験		個人
15	解説·再試		個人
期末 試験	実技試験	実技試験 100% 評価方法	
【教科	(公社)全国柔道整復師協会	監修『柔道整復学·実技編』 改訂第2版 (南江堂)	
▲	(公社)全国柔道整復師協会	監修『包帯固定学』改訂第2版(南江堂)	
【参考	書】 認定実技審査要領		
【授業時間	外に必要な学習の具体的内容】認定実技	審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。	
【本講義に	関しての質問先】学科教員	【質問方法】 教員室にて	

ディカルスポー 授業の概 協床現場で 学習目標 ①柔道整復 ②医療人と	②柔道整復師としての (到達目標)】 夏師の業務の流れを こしてのマナーおよび ・査、治療(物理療法	【学年】 3 必要なマナー、: 理解する ぶ注意点を学ぶ。 かを行なう上で	の注意点を学ぶ	高橋 洋一 【回数(時間)】 45(90)	講	専門職と コミュン チ-	担任 【単位】 2 して得られる力】 としてのスキル・意識 ケーションスキルームで働く力 考え抜く力 問題解決力
ディカルスポー 授業の概 協床現場で 学柔療 3間を 3間を 4 5 1 2 2 2 8 8 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	象学科】	【学年】 3 必要なマナー、: 理解する ぶ注意点を学ぶ。 かを行なう上で	後期知識、技術を学ぶの注意点を学ぶ	45(90)	講	義 【受講し 専門職と コミュン・ チー	【単位】 2 して得られる力】 こしてのスキル・意識 ケーションスキル ームで働く力 考え抜く力
ディカルスポー 授業の概 協床現場で 学柔療 3間を 3間を 4 5 1 2 2 2 8 8 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	ーツ柔道整復学科 要・目的】 ご柔道整復師としてが (到達目標)】 夏師の業務の流れを としてのマナーおよび ・立てのマナーおよび ・査、治療(物理療法	3 必要なマナー、 理解する 「注意点を学ぶ ()を行なう上で	後期知識、技術を学ぶの注意点を学ぶ	45(90)	講	義 【受講し 専門職と コミュン・ チー	2 して得られる力】 こしてのスキル・意識 ケーションスキル ームで働く力 考え抜く力
授業の概 臨床現場で 学乳目標 1) 2) 3) 1 2 1 2	要・目的】 ②柔道整復師としてが (到達目標)】 夏師の業務の流れを にしてのマナーおよび ・査、治療(物理療法	必要なマナー、 理解する 「注意点を学ぶ	知識、技術を学ぶの注意点を学ぶ			【受講し 専門職と コミュン・ チー	して得られるカ】 としてのスキル・意識 ケーションスキル ームで働くカ 考え抜くカ
学習目標 ①柔道整像 ②医療人と ③問診、検 ④ ⑤ 「優修上の) 回数 1 2	(到達目標)】 夏師の業務の流れを こしてのマナーおよび 査、治療(物理療法	理解する 「注意点を学ぶ ()を行なう上で	の注意点を学ぶ	D内容·目標(使用教	材等)	専門職と コミュン チ-	こしてのスキル・意識 ケーションスキル ームで働くカ 考え抜くカ
①柔道整像 ②医療人と ③問診、検 ④ ⑤ 「優修上の) 回数 1 2	夏師の業務の流れを こしてのマナーおよび 査、治療(物理療法	が注意点を学ぶ 分を行なう上で€	の注意点を学ぶ	D内容·目標(使用教	材等)	専門職と コミュン チ-	こしてのスキル・意識 ケーションスキル ームで働くカ 考え抜くカ
②医療人と ③問診、検 ④ ⑤ ⑤ 【履修上の》 回数 1 2	:してのマナーおよび 査、治療(物理療法 注意]	が注意点を学ぶ 分を行なう上で€	の注意点を学ぶ	D内容·目標(使用教	材等)	コミュン チ- ま	ケーションスキル ームで働く力 考え抜く力
3問診、検 4 5 0 位数 1 2	査、治療(物理療法 注意]	()を行なう上で	の注意点を学ぶ	D内容·目標(使用教	材等)	チ- ま	ームで働く力 考え抜く力
④ 5 【履修上の》 回数 1 2	注意】			D内容·目標(使用教	林等)	ā	考え抜く力
5 【履修上の》 回数 1 2		3当教員)	授業の	D内容・目標(使用教	材等)		
【履修上の》 回数 1 2		3当教員)	授業6	D内容・目標(使用教	材等)		<u></u>
1 2	授業のテーマ(担	3当教員)	授業6	D内容·目標(使用教	林等)		
2					1.1. <u>et</u> /		授業方法
							グループ
3							グループ
							グループ
4							グループ
5						-	グループ
6						-	グループ
7	拉油、亚什类效	カリニ淮/共し72	宮田 史本話道 ぐい	ヾメイク、後片付け、タ	-+ u =		グループ
8				*メイク、後月刊り、3 測定の補助、物理療	_		グループ
9						-	グループ
10						-	グループ
11							グループ
12							グループ
13							グループ グループ
15							グルーフ グループ
期末 レホ	ペート提出		評価方法	レポート	80%		
試験	T=			受講態度	20%		
【教科書		実技編 改訂第	92版、柔道整復学・∃	理論編 改訂第6版			
【参考書				- W / W			
	に必要な学習の具体的 関しての質問先】学科		生理学などの基礎图	医学知識 教員室にて			

1 グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ		【科目名】			【担当教員】			【科目責任者】
「対象学科	篮	臨床実習Ⅲ(2/3))		長坂 愛			担任
ディルスポーツ条道整復学科 3 後期 45(90) 講義 2 【授業の概要・目的】 (学習目標(到達目標)】 (受講して得られる) 専門職としてのみわい。 ②医療人としてのマナーおよび注意点を学ぶ (3問診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ (4) 第2、立ケーションス・デームで働く力 考え抜く力 問題解決力 問題解決力 問題解決力 【優棒上の注意】 回数 授業のテーマ(担当教員) (投業の内容・目標(使用教材等) グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ				【閱譯吽伽】	【回粉/吐胆】	「恒安	形能】	-
議議の機要・目的] 臨床現場で柔道整復師として必要なマナー、知識、技術を学ぶ [学習目標(到達目標)] ①柔道整復師の業務の流れを理解する ②医療人としてのマナーおよび注意点を学ぶ 3(別診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ 3(別診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ 3元 (使用数材等) 授業の方に (関係上の注意) [関係上の注意] 2 グルーコ 2 グルーコ 3 グルーコ 3 グルーコ 4 5 6 グルーコ 6 グルーコ 6 グルーコ 6 グルーコ 7 体通、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作 グルーコ 7 グルーコ 7 グルーコ 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11								
臨床現場で柔道整復師として必要なマナー、知識、技術を学ぶ 【学習目標(到達目標)] ①柔道整復師の業務の流れを理解する ②医療人としてのマナーおよび注意点を学ぶ ③ 間診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ ④ 方え抜くカ 問題解決力 【優修上の注意】 回数 授業のテーマ(担当教員) 授業の内容・目標(使用教材等) 授業方法 グルーコ			<u> </u>		40(30)	一	· #X	
 ①柔道整復師の業務の流れを理解する ②医療人としてのマナーおよび注意点を学ぶ ③ 問診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ ④ 方したの注意 回数 授業のテーマ(担当教員) 授業の内容・目標(使用教材等) 授業方法 グルーコ グルーコ グルーコ がルーコ がルーコ がルーコ がルーコ がルーコ がルーコ がルーコ がルーコ グルーコ 			必要なマナー、タ	印識、技術を学ぶ				
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	学習目標(到達	達目標)】					【受講	して得られる力】
3問診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ チームで働く力 考え抜く力 問題解決力								
考え抜く力 問題解決力 同数 授業のテーマ(担当教員) 授業の内容・目標(使用教材等) 授業方法 グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ イ								
問題解決力		、治療(物埋療法)	を行なつ上での	刀汪恵点を字ふ				
図修上の注意] 回数 授業のテーマ(担当教員) 授業の内容・目標(使用教材等) 授業方法 グルーコ グルーコ								
回数 授業のテーマ(担当教員) 授業の内容・目標(使用教材等) 授業方法 1 グルース 2 グルース 3 グルース 5 グルース 6 グルース 7 接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作 グルース 9 グルース 10 グルース 11 グルース 12 グルース 13 グルース		新 】					,,	可退件人刀
1 グループ グループ グループ グループ グループ グループ グループ グループ		_	 当教員)	授業の) 內內容·目標(使用教	材等)		授業方法
2 グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ グルーコ						· · · ·		
3 グループ グループ グループ グループ グループ 8 接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、 施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作 グループ グループ グループ グループ グループ ガループ ガループ ガループ ガループ ガループ ガループ ガループ ガ	1							クルーノ
4 グルーラ 5 グルーラ 6 グルーラ 7 接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作 9 グルーラ 10 グルーラ 11 グルーラ 12 グルーラ 13 グルーラ	2							グループ
5 グルーラ 6 グルーラ 7 接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作 9 グルーラ 10 グルーラ 11 グルーラ 12 グルーラ 13 グルーラ	3							グループ
6 グループ 7 接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作 9 グループ 10 グループ 11 グループ 12 グループ 13 グループ	4							グループ
7 グルーラ 8 接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作 9 グルーラ 10 グルーラ 11 グルーラ 12 グルーラ 13 グルーラ	5							グループ
8 接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作 9 グループ 10 グループ 11 グループ 12 グループ 13 グループ	6							グループ
8 施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作 9 グループ 10 グループ 11 グループ 12 グループ 13 グループ	7							グループ
10 グループ 11 グループ 12 グループ 13 グループ	Q					-		グループ
11 グループ 12 グループ 13 グループ	9							グループ
12 グループ	10							グループ
13 グルーフ	11							グループ
	12							グループ
14	13							グループ
	14							グループ
		. 10.11		1				グループ
期末 レポート提出 評価方法 レポート 80% 受講態度 20%					受講態度			
柔道整復学·実技編 改訂第2版、柔道整復学·理論編 改訂第6版 【教科書】	【教科書】		実技編 改訂第	₹2版、柔道整復学•}	埋論編 改訂第6版			
【参考書】 特になし			_ 1	11. TT 24. 1. 10 - 44-44-	- 32£ £_ =34·			
「授業時間外に必要な学習の具体的内容」解剖学、生理学などの基礎医学知識 【本講義に関しての質問先】学科教員 【質問方法】 教員室にて				•				

		目名】			【担当教員】			【科目責任者】
	臨床実	習Ⅲ(3/	3)		片桐秀樹			担任
	【対象学科】		 【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	「拉娄	形態】	
	┗刈ゑヱヤイ】 スポーツ柔道整復	· 学科	<u>子平】</u> 3	後期	45(90)		義	2
	O概要·目的】	-14	<u> </u>	区利	40(00)	D M	· #X	
		師として	必要なマナー、	知識、技術を学ぶ				
【学習目	目標(到達目標	[(【受講	して得られる力】
	整復師の業務							こしてのスキル・意識
			び注意点を学ぶ					ケーションスキル
_	、筷盆、冶漿(物埋療法	ま)を行なつ上で	の注意点を学ぶ				ームで働く力
4) 5)								考え抜く力 引題解決力
_	上の注意】						It	可超胜人力
回数	_	テーマ(‡	 旦当教員)	授業(カスター 目標(使用教	材等)		
1	*******					<u> </u>		グループ
<u>'</u>								<i></i>
2								グループ
3								グループ
4								グループ
5								グループ
6								グループ
7								グループ
8					ドメイク、後片付け、《 測定の補助、物理療			グループ
9								グループ
10								グループ
11								グループ
12								グループ
13								グループ
14								グループ
15								グループ
期末 試験	レポート提出			評価方法	レポート 受講態度	80% 20%		
【教	科書】		・実技編 改訂領	第2版、柔道整復学∙∶	理論編 改訂第6版			
	考 書】	なし	Γ.					
			1.5.1	生理学などの基礎				
本講義	養に関しての質	問先】学	科教員	【質問方法】	教員室にて			